

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775003151		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	東大阪市加納2丁目12番7号		
自己評価作成日	令和3年8月6日	評価結果市町村受理日	令和3年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しく・自由に・ありのままに…の理念に基づき、ご利用者様が望まれるケアを常に心がけサービスにあたる。
 ご利用者様にとって、ここが一番居心地の良い場所であると思って頂ける様な施設にしていきたいです。
 ご利用者様お一人おひとりを尊重させて頂きながら、最後までその人らしく生活をして頂ける介護を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には神社・仏閣 小・中学校 幼稚園、保育園、加納公園などがある閑静な住宅街の中に、3階建ての「さざなみ壱番館」がある。その2階部分に「グループホームさざなみ」があり、1階部分には「さざなみクリニック」がある。緊急時の時には即対応ができるので、医療面では利用者、家族に安心感がある。毎日の食事は専門のスタッフによる手作りで、毎食美味しい手作りの食事が提供されて、利用者にご褒め評判がよい。地域との交流も日常的に挨拶を交わし、秋祭りでは事業所に神輿も立ち寄り、祭りの最高潮を味わっている。コロナ禍で外出自粛となって、建物の屋上をこれまで以上に利用し、軽い体操や、焼肉パーティ、お寿司パーティなどして、外食気分を味わう取り組みをする工夫などし、常に利用者主体の生活支援を目指しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ワッハハ・明るく笑えば広がる笑顔」事業所理念のもと職員は入居者様と接している。朝礼では唱和し、勤務の中で共有しながら、常に理念の実践に心がけている。	法人理念「①楽しく、自由にありのままに②残された力で暮らす喜び③家庭的な愛にあふれた暮らし④地域との連携と交流を図る」と、事業所理念「ワッハハ、明るく、笑えば広がる笑顔」をフロアに掲示して、職員は朝礼で唱和して、常に理念を確認し、利用者との関りが楽しく笑顔で過ごせるよう、実践している。	平成18年度に介護保険法の改正で新設された地域密着型サービスの役割を理解して、事業所の状況変化や、現況から何が大切かを考えて、更に意識を高めるうえで職員相互で話し合い、地域と共に笑い、明るく暮らす事業所理念の見直しを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	のどかな住宅街で散歩時など、ご挨拶をしたりして極普通にお付き合いさせていただいています。自治会にも入っており、出来る限り地域の行事には入居者様の負担にならないよう参加させていただけるよう努めています。	近隣に公園、神社仏閣、小学校、中学校、スーパー等があり、自治会に加入して、地域の行事に参加するなど、日常的に自然体な交流がある。地域の保育園児、幼稚園児との触れ合い、秋祭りでは神輿が事業所に立ち寄るなど、利用者は非常に喜んでいる。事業所の力を活かした社会貢献の一つとして中学生の実習生受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の老人会の方や他の事業所と情報交換をし、イベントに参加したりして、認知症の方への理解をしていただけるよう、助言をいただけるよう努めています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い地域包括支援センター、近隣グループホーム、ご家族様、入居者様の各々の代表の方に参加して頂き、行事報告や事故報告サービスなどの様々な報告を行い、意見交換などをして地域に開かれたサービスで質の向上に努めます。	年6回、地域住民代表、地域包括センター職員、近隣のグループホーム職員、家族、利用者で奇数月に双方向的な会議を開催していたが、今年5月、行政指導で、コロナ禍の為「活動報告」を書面に代えて、関係者に送付している。サービス向上のために意見、要望などは電話、FAXで問い合わせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、何かあればすぐに相談にのっていただけるよう連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいます。丁寧に対応される。	生活保護課に、公的援助を必要とする利用者の介護、医療などの書類申請や相談に、よく出向いて協力関係を築いている。年1回、ケースワーカーの方が利用者の生活状況などの確認に事業所へ来られる。行政主催の研修会には実践者研修などに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化の為の指針を作り、委員会を3ヶ月に1度開催している。会社内の虐待防止・身体拘束、毎月、身体拘束・事故委員会の報告をだしてもらい、職員会議等で話し合っています。自己研修として常に取り組んでいます。	身体的拘束等の適正化の為の指針を作り、委員会を3月に1度開催している。管理者を委員長として介護支援専門員・リーダー・介護職員で委員会の会議を行い記録を残し、全員に周知徹底している。法人内に身体拘束ゼロ対策委員会が設置されている。「ちょっと待って」などスピーチロックにならないように支援に余裕を持つよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の日常の様子を常に見守り、観察しています。異常があればすぐに報告する形をとっています。(打ち身・擦過傷なども)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は内部研修等で制度について学習し、知識を深め、必要性が生じたときは関係機関と連携をとり、活用していくことが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、重要事項や契約書の中身を入居者様や家族様に説明し、わかりにくかったり、不安な点や疑問点を尋ねている。納得を得た上で手続きしていただけるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など下駄箱のところに意見箱において意見要望の収集の機会を設けている。また契約時のアンケートなどからも意見、要望を集める工夫をしている。	自由に意見を表すことが出来るように意見箱の設置を行っている。本社において年1回ご家族・関係者にアンケート実施している。結果は書面にて報告されて、それらを運営に反映している(フロアが汚れているなどの指摘もあり直ぐに対応している)毎月スタッフが作成した「さざなみ通信」の便りは家族に大変喜ばれ好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場や個人の提案を聴く機会を持つことによって、職員一人ひとりの意見を大切に出された案件を、誠実に反映できる体制を作るよう心がけている。	管理者が適宜、職員の面談を行って、意見、要望を聞いている。(ストレスがないか?改善していくことはないか等)。法人で面談シートを作成し、それをもとに代表が面談を行って職員の意向を聞いている。最近、代表が交代して人材育成が組織的に改善が図られている。現在、玄関の鍵の取り換えを提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事ができるような体制を目指し実践している。職員一人ひとりの希望にあった勤務体制に沿えるように努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市町村の研修には積極的に参加している。また施設内でも自主的にテーマを決めて研修を行っている。研修費の補助制度や資格などを取得しやすい環境を作り、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会の研修の参加や近隣の運営推進会議に互いに参加し合うことによって、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染まれるよう常に職員が働きかけ、傾聴し寄り添って安心して過ごされるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されてきた困り事や悩みを家族様の立場にたって、しっかりと受け止め安心していただけるよう連絡を満つにして対応するようにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、家族様の思いをしっかりと汲み取ってどのような支援が必要か、職員間で話し合って支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は私たちの大先輩である。人格を尊重して学ばせて頂いている気持ちを忘れずにひとつの家族として支えあい、助けあって日々過ごして行くようにつとめる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られたときは居室で過ごして頂き、のちにフロアで話されています。その際に職員からの情報も聞かれたりして、日常の様子を知って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近場の入居者様がおられるため、近所の方やお友達が来られ、いままでの付き合いを続けられています。再度お越しいただくよう声掛けし、継続支援に努める。	利用者の馴染みの知人とは、職員も馴染んで、訪問の時は一緒に楽しくお話しをするなどして、また、気軽に来れるように雰囲気を作っている。馴染みの知人や家族からの電話の取り次ぎや、職員と一緒に年賀状作りなどしてこれまでまでの関係継続ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ一人孤立しないように、職員も間に入ることにより、会話が弾むように支援しています。利用者様同士が常に和み、楽しんで頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用がなくなっても、ご近所の方とは会う機会があり、お互いの近況を話し、いつでも相談にきていただけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者様お一人おひとりの思いや意向をくみとり、出来るだけ希望に沿えるように、また地域の行事にも声掛けして参加できるように支援している。	日常生活の中で常に寄り添い、言葉や表情で本人の思いを汲み取ると共にサインを見落とさない様に心がけている。何か気づきがあれば職員間で共有し、出来るだけ本人の意向を満たすように支援している。会話の難しい利用者の方は顔の表情やしぐさなどで把握し、不安のない生活が送れるように努めている。(例えば何回も立ち上がることでトイレに行きたいのでは?と声掛けしてみる。)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活歴を家族様やご本人様よりお聞きして、これまで培われてきた家事やできることを感覚として残していられるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの一日の過ごし方は様々ですが、居室やフロアで思い思いに過ごされています。気づいたことは職員間や職員会議にて共有し検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や職員の間で気づいた事をモニタリングをし、職員会議で検討して介護計画に反映して作成している。	計画作成担当者とスタッフは利用者一人一人について、何が出来て・何が必要かを考えてプランを作成している。面会時ご家族に希望を聞くようにしている。出来上がったプランは本人・家族に説明して確認を得ている。職員間で何か気づきがあればモニタリング、アセスメントを繰り返しその都度話し合って長期1年、短期半年の計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個人ごとに生活記録に記入し、職員間で情報共有を行う。何か問題が発生したときは意見を出し合い、対応、対処方法を検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場その時のニーズに応じて、他の社会資源と連携して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、老人会、他のグループホームの方々と協力しながら地域の行事などにも積極的に参加し、安全で豊かな毎日が過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がおられるときは協力し、すぐに医療が受けられるよう関係を築いている。また協力医療機関とも連携をとりながら定期的に、変化があった時もしくは連絡をとり、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の同意の下、協力医療機関をかかりつけ医として月2回、内科医による健康管理を行っている。歯科は希望者のみ、週1回、受診している。急変時は訪問看護師に連絡をするようになっている。眼科や皮膚科などの受診は、家族の同行が基本であるが、都合がつかない時は職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日頃の健康管理や様子観察などで、入居者様の細かな変化や気づきを看護師につたえ、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設からの情報はもちろんのことスムーズな退院が出来るように、面会時などに病院関係者と情報交換や相談などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に説明している。具体的なことについてはなるべく早い時期に家族様と話し合いをして、協力医療機関や看護師との連携によって家族様に安心して頂いている。	契約時に重度化や看取りに関する指針を示して、事業所としてできる事、出来ない事の説明を行い同意を得ている。看取り指針により、早い段階から利用者、家族と話し合いをして、かかりつけ医、看護師との連携を密にした医療連携体制ができています。看取りケアに関する職員研修を実施して、昨年度は2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として常に急変時の対応や事故発生時の対応について研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会い指導と自施設のみと年2回行っている。地域の人達とも協力体制がとれるよう日頃努めている。	消防計画、風水害、地震など災害に対処するための計画とマニュアルを作成している。災害訓練は昼、夜間想定で、消防署立ち合いと自主訓練の年2回、実施されている。備蓄は水・食料(缶詰・お粥)等3週間分が事業所の倉庫に保管されている。地域住民との良好な関係を築いて非常時の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりお一人の人格を尊重し、尊厳と権利を守ることを基本にしてプライバシーも尊重した言葉かけを心がけている。常に認知症についての研修もおこなっており、コミュニケーションの取り方など話し合っている。	法人の研修で、利用者の尊厳、権利擁護について研修を受けている、特に言葉かけには気を付けるように努めている。言葉遣いは一人ひとりの人格を尊重し、さんづけを基本としている。個人の重要書類は事務所内鍵付きロッカーに保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人さまの思っていることや意見などを引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりのその人らしい生活が送れるように、個人の気持ちや体調の変化を見届けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、その人らしさの思いを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや力を活かして、入居者様と職員が配膳や食事、後片付けを一緒になって行っている。	食事は職員が協働して事業所内で手作りを提供している。利用者は配膳や後片付け等を行っている。時には屋上で焼肉パーティ、お寿司パーティを企画し、コロナ禍で外食できない分、屋上を利用してリクレーションのような気分転換を行っている。利用者と職員は共に楽しみ、好評を得ている。希望により外食レクリエーションとして家族と共に外食(お寿司屋さん)出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をその都度記入し、把握して確保できるようにまた状態に合わせて適切に対応出来るように工夫して提供している。食事が取りにくい場合は医療機関と連携して栄養が取れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは利用者様に合わせた声掛けをし、介助している。訪問歯科による週1回の口腔ケアを実施しており、口腔体操や治療など、協力体制のもと行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを確認しながら、プライバシーに配慮した声掛けを実践。出来るだけトイレで排泄したいという気持ちをおもんじて、早めの声掛け誘導に努めている。	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握して、利用者のトイレ誘導を促がしている。殆どの方がパットやリハビリパンツを利用している。失禁されて気にされている利用者には「沢山出てすっきりしましたね」等の声掛けをし、その方の尊厳や羞恥心への配慮に努めている。夜間は2時間ごとの見回りだが安眠重視で熟睡している時には時間をずらすなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために毎日の排便を確認し、出来るだけスムーズに排泄できるよう水分や食事量に注意している。運動不足も影響するため、一緒にフロア内を歩いたりして体を動かして頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日など決めさせて頂いていますが、利用者様が拒否されたりした場合は無理強いせずに日を変えたりする。気持ちよく入浴されることが一番のくつろぎになるのでそのように支援している。	入浴は基本、週2回としている。入浴拒否の利用者には無理強いせずに時間をずらしたり職員を変えたり工夫している。季節のゆず湯や菖蒲湯を入れたり、入浴剤を使用するなど、楽しい入浴となるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりお一人の生活習慣やその日の様子を見ながら、ゆっくりと安心して休まれるように心がけている。その日の状態はどんな具合だったか、かえりみて記録することも大事。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬について理解しており、服薬については何重にもチェックして確認している。症状の変化については看護師にすぐ連絡し主治医の指示をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のダンスやカラオケなど、少しでも張り合いのある生活が送れるように、行事として花見やひなまつりなど多彩に取り入れて満足していただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様お一人おひとりの希望に出来るだけ合わせられるよう買い物や散歩などの外出支援を行っている。季節の行事として夏まつりや山車など積極に出向いて地域の方達と触れ合っている。	毎日の日課として、近くの公園へ散歩に出かけたり、利用者個々に合わせて買い物、外食支援も行い、利用者、職員と共に気分転換を図っていたが、コロナ禍になり外出自粛になってからは、屋上を利用する機会を増やし、体力低下防止に外気浴や日光浴を楽しんでいる。時には焼肉、お寿司パーティーをするなど閉塞感を感じさせない企画を工夫をしている。	一昨年から外出自粛が続く中で、閉塞感を感じさせない為に、広い屋上に五感の刺激にも良い花壇を造り、外気浴を兼ねて、毎日の水やりや花の手入れなど、利用者の残存能力の発揮できる機会をつくり、気分転換が出来るようにしたいと検討中との事。実現されることを望む。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの希望を受け止めて、その方に応じたお金の使い方が出来るように、わずかでも支援している。散歩時コンビニなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したり、また家族様からかかってきた際は本人様が変わっていただいたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やクロスは落ち着いた優しい雰囲気にしており、壁かざり、スナップ写真など展示して利用者様に常に見て頂ける目の高さで展示している。	共用のリビングルームには3人掛けのソファが3脚置かれ、時には気の合う利用者同志がおしゃべりを楽しんでいる。壁には季節に応じた花(あじさい、ひまわり)や工作などを飾り、イベント時の写真等を飾っている。利用者の動線上には障害物を置かない(掃除後のバケツや水など)滑りやすい転倒のリスクを考え注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にありのままに過ごしていただけるようフロアのソファを動かし、セッティングして仲良くお話ししやすいように工夫する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具などを置いて、居心地よく安心して過ごして頂くように配慮する。	居室にはベッド、エアコン、防災カーテン、小タンスが備え付けられている。利用者は馴染みの仏壇、家族写真等、家族と相談して持ち込んでいる。職員と共に朝の掃除を行ない、居心地よく過ごせるよう工夫している。自室の仏壇にお茶をお供えされる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの動き出せる能力やわかる力を活かし、自立して過ごしていただけるように支援している。施設内での行事には無理のない範囲で参加して頂いている。		